# 「バリアフリーフェスタかながわ2018」の総括

資料１

## １　目的

　神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議（以下「県民会議」という。）では、障がい者、高齢者、妊産婦、乳幼児連れの方などが安心して生活し、自らの意思で自由に移動し、社会に参加できる街づくりを進めている。

　その一環として、県内の障がい者等の関係団体や事業者・ＮＰＯ団体、県民からの公募委員、行政の協働により、「バリアフリーフェスタかながわ2018」（以下「フェスタ」という。）を開催した。

　１～４回目は相模原市内の商業施設にて開催し、昨年度５回目は開催場所を移し、横浜市の大学構内の施設にて開催した。６回目となる今回は横浜市内の商業施設で開催した。

　このフェスタは、県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案したもので、その目的は、平成24年９月に県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街を体感してもらうことで、バリアフリーの街づくりに対する理解を深めていただくことにある。

〔企画・立案に当たっての考え方〕

・　県民会議の理念に基づき、県民・事業者・行政が協働で実施する。

・　継続的にフェスタが開催できるよう、持続的かつ安定的な開催形態を意識して準備を進める。

・　県民から広く意見を募るよう、開催会場は誰もが自由に参加できるような場を設定する。

・　当事者団体・事業者団体からの参加を積極的に促す。

・　県民から多くの意見をもらえる形式とする。

・　来場者が気軽・身近に感じられる参加型・体験型の内容を中心としつつ、来場者が「大変だね」「かわいそう」では終わらない、バリアフリーの必要性、支えあいの心を自然と身につけるものとする。

・　ユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、来場者の誰もが安全・安心に参加できるように配慮したイベントとする。

・　フェスタ全体で統一的なテーマを設定して、各団体のコーナー運営に取り入れる。

## ２　概要

(1) 日時

平成30年11月４日（日）　11：30～17：00

(2) 場所

横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、

新都市ホールホワイエ（横浜市西区高島2-18-1）

(3) 主催

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議

構成：学識経験者(4)、障がい者団体(7)、関係団体(3)、事業者(8)、公募委員(2) 計24名

(4) 内容

　ア　テーマ「みんなで学ぶバリアフリー～ともに生きる社会に向けて～」

イ　県民会議構成団体を含む16団体が13コーナーを企画し、運営

ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーの実施

〔スタンプラリーの達成条件〕

エ　コーナー３か所以上のスタンプをスタンプラリー台紙に集める。

オ　上記に加えて、アンケートへの回答を景品引換の達成条件とする。

カ　同日、県主催の介護フェアinかながわが開催され、スタンプラリーの周るコーナーと設定するなど相互の乗り入れを図った。

(5) 参加者数　※〔　〕は昨年の数字

ア　コーナー参加者数　1,201名〔1,014名〕（各団体でカウントした参加者の合計人数）

イ　スタンプラリー達成者数　 221名〔 158名〕

## ３　アンケート結果・分析

(1) 来場者向けアンケート

　　　来場者へのアンケート結果は別添のとおり。来年度に向けた分析は下記。

　　ア　昨年度の来場は各団体のお知らせで知った人が４割強、知人・友人から知った人が３割強であったが、今年は会場に来て初めて知った人と並び新聞で知った人がそれぞれ２割を占めた。

　　イ　介護フェアと同時開催であったためか、30代から70代までの来場者の合計が９割近く、昨年度まで２割弱を占め、他の年代と比べて多かった小学生の比率が大幅に下がり、小学生をはじめとする子どもの来場が少なかった。次回以降は子どもも巻き込めるような企画や周知について検討したい。

(2) 実行委員会向けアンケート

　　　実行委員へのアンケート結果は別添のとおり。その中から主な意見の分類分けを行い、課題を抽出した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 分類 | 内容 |
| １ | 目的・考え方 | ・　フェスタを目的に来てくださる方も大切ですが、その場で参加いただいた方、普段、バリアフリー関係になじみのうすい方など、流動的な参加者を多く取り込めた気がした。  ・　2020年夏のオリパラが終わると、世間のバリアフリーへの関心は低下する。バリアフリー社会を目指そうという機運の高まりも、このフェスタがそれに一役買えるのも、来年がピークなので、関係者だけではなく、一般の人にももっと訴求して、2021年以降もバリアフリーに意識を向けてくれる人を増やしたい。  ・　スタンプラリーを目的にブースに来る方にも、団体の活動をお話ししたり、パンフレットを受け取っていただくことができた。また、スタンプ目的ではなく、話を聞きにきてくれた方も１０人ほどいた。普段は出会うことのない方々に対して、バリアフリー社会の実現に向け活動している団体が数多くあることをアピールする良い機会になったと思う。 |
| ２ | 開催日時 | ・　開催時間が長く感じた。同時開催のイベントに合わせた開催時間である必要はないと思う。 |
| ３ | 開催場所 | ・　会場のアクセスが良く、人の集まる商業施設等であったため、かなり多くの来客が興味を示してくれた。このような場所で開催するのが良いと思う。  ・　横浜そごう入口前の地下1階での開催ができるといいと思う。  ・　閉鎖的な空間だったので、誰もが気楽に来られる雰囲気ではなかった。  ・　相模原、横浜のほか、県内のいろいろな場所で開催できたらよいと思う。  ・　地域連携を積極的に行うべきだと思う。毎年実施する地域を変えながら地域連携（自治会・教育委員会、商工会等）を図って、面として活動を広げていくというアイデアをぜひ検討して欲しい。  ・　介護フェアと同時開催でなかったら、集客が難しかったのではないかと思う。  ・　バリアフリーフェスタを目指して来た客は少なかった（いなかった）と感じた。  ・　横浜駅のような大きな駅近くでの開催は、利便性はあるが制約も大きいので、開催場所として甲乙つけがたい。  ・　爆発的な来場者が期待できないなら、「地域巡回開催」が活動理念に合致していると思う。  ・　アリオ橋本のようなオープンスペースで、子どもや家族連れが多く集まる場所がいいと思う。  ・　会場にUDタクシーや福祉有償運送の福祉車両を見てもらえるスペースが欲しいです。 |
| ４ | 集客・周知 | ・　当日実施したみなとみらい線改札でのティッシュ配りは、効果はあまり見込めなかったと思う。  ・　子どもの来場がほとんどなかったのは残念。  ・　今回のフェスタは多くの来客もあり、スペースも程よくコンパクトで、例年通りか昨年より活気も感じて良かったと思う。 |
| ５ | 事前準備 | ・　記者発表はする必要がある。  ・　ちらしのデザインの見直しが必要。 |
| ６ | 運営体制 | ・　音楽コンサートをやっている同じ空間（ドアの仕切りがないところ）で、手話を覚えてみようのコーナーがあり、説明の声が聞こえなかったという意見があった。  ・　全てのブースが分かり易いように順路テーブルにする等、配慮が必要と思う。  ・　コーナー運営に必要となる十分なスペースが確保できなかった。  ・　実行委員会との連携やコーナー運営を行う上等で、事前の準備の必要性を感じた。  ・　実行委員や参加団体について、県民会議以外の様々な団体や企業が積極的に参加できるような工夫があるといいと思う。 |
| ７ | 同時開催 | ・　色々と体験できるし、子供も楽しめるのでいいと思う。  ・　バリアフリーフェスタ単独での開催では集客が難しいので、同時開催などで双方が協力できるといいと思う。  ・　「集客」という意味では良いと思いますが、意識の高い方や目的がはっきりしている方の来場がメインとなるため、まだ知らない方に知ってもらう「周知」という意味では、同時開催イベントの内容も工夫が必要だと思う。  ・　同時開催は集客増加につながるとは思うが、バリアフリーフェスタの趣旨が伝わりにくいのではないかと思った。  ・　予算とスタッフを確保できなければ、開催できないので、同時開催することもやむを得ないと思う。  ・　人に来てもらえないことには意味が無いので、同時開催も必要かもしれないが、いずれは独立したイベントにしたい。  ・　良かったとおもいます。もっと一体感があるような仕掛けがあると、より魅力的になるように感じた。  ・　介護フェアとの同時開催は成功だったと思う。はじめは集約に不安があったが、事前の広報や、当日の呼び込みの成果か、混乱するほどでもなく、寂しいことも全くなく適度な来場者があってよかった。  ・　基本良いはずだが、主従関係ができていたのが気になりました。1つのイベントとしてできた方が良かったと感じました。  ・　規模が大きくなりすぎなければ、集客増加と体験者増加の両方が望めると思います。  ・　抱き合わせでなく独自開催が望ましいと思うが、現時点では知名度も、県民の興味も、魅力的な内容という面でも集客力が望めないので仕方ないと思う。  ・　バリアフリーのまちづくりを浸透させるために、いかに魅力的なフェスタに発展させるかが大きな課題だと思う。例年通りでいいのだという考え方であれば、どんなイベントと一緒に組むのか実行委員会で議論してはどうか。例えば、福祉とは関係がないイベントでも、普段バリアフリーに触れることがない多くの人たちに、バリアフリーを体験してもらうというのは、フェスタの理念に合致する考え方だと思う。  ・　併催イベントとは、早期に調整した方が良いと思われる。 |
| ８ | シャツ着用 | ・　スタッフであることを明示することが出来、また、一体感を醸成することも出来たので、良かったと思う。  ・　デパートに買い物にいらした一般の方の興味を引くことが出来た。より多くの方に知っていただくことに意味があるので、良かったと思う。  ・　着用ならやはり「バリアフリーフェスタかながわ」と描かれたものが良いと思う。ビブスなど安く作れないか。  ・　今回は無償で提供していただきましたが、有料となると二の足を踏んでしまう。  ・　シャツのセンスも良く、フェスタが華やかになり、非常に良かった。ぜひ来年もやって欲しい。 |
| ９ | その他 | ・　知事が、各ブースで、それぞれの取組みに耳を傾けてくださったのが印象的だった。  ・　フェスタ準備について個人はどうしたらよいのかわからなかった。  ・　現状に満足せずに、より魅力的なフェスタへと発展していくべきだと思う。今回の倍の集客、倍の影響力を目指すとしたら何が必要なのか、そういう議論も必要だと思う。 |

## ４　対応策

(1) 目的・考え方

　　引き続き、関係者だけではなく、一般の人でもバリアフリーに意識を向くような工夫をする。

(2) 開催日時・場所

　　※　資料２で説明

(3) 集客・周知

当日実施するちらし配り等の広報活動場所について、効果が見込める場所で活動できるように努める。また、子どもも巻き込めるように企画や周知等において工夫をする。

(4) 事前準備

ちらしやのぼり旗のデザインをより集客性の高いものへ図るため、早期の段階から、委員会へ意見を募るなどの対応をする。

(5) 運営体制

ホール内の音が妨げにならないようにするなど、ブースの内容に沿ったコーナー配置を行う。また、全てのブースの配置が分かりやすいように工夫する。

(6) 同時開催

同時開催にはメリット、デメリットの双方があるが、同時開催する場合は、早期からの調整に努め、一体感があるような仕掛けやフェスタの趣旨の伝え方について工夫する必要がある。

(7)シャツの着用

今年度のピンクシャツデーTシャツの着用はスタッフであることを明示することができ、一体感を醸成することも出来た。来年度もスタッフであることを明示できるような工夫をする。